

国連事務総長メッセージ
(東京、2013年4月2日)

日本において世界自閉症啓発デーに参加なさっているみなさまにご挨拶することができ、嬉しく思います。

自閉症及びその他の発達障害は生涯にわたる疾患であり、世界の何百万もの人々に影響を及ぼすものです。我々は、彼らに支援の手を差し伸べ、彼らのニーズと懸念に対応するためにグローバルな取組を必要としています。

シンポジウムは、待ち望まれた世界的な自閉症啓発運動の機運の高まりに寄与するものであります。

今期の国連総会では、自閉症及びその他の発達障害によって影響を受けているすべての個人と家族の生活を向上させるため、国際社会の強いコミットメントを示す新たな決議が採択されました。本決議は、自閉症スペクトラム障害に関する一般市民及び専門家の意識の向上の必要性に言及し、加盟国とその他の国々が調査研究を推し進め、保健医療、教育、就労及びその他の必要なサービスを拡大するよう奨励しています。

世界保健総会理事会も、次の5月の総会で自閉症スペクトラム障害を議題として取り上げるでしょう。

このように国際的な注目を得ることは必要不可欠であります。スティグマと意識の欠如、不適切な支援の仕組みによって、進展が妨げられています。近年の研究では、早期介入が自閉症のある人々の能力を大幅に高めるのに役立つことが示されています。今こそ、よりインクルーシブな社会を発展させるために、政策や制度を実施し、具体的な介入を行うときです。

それと同時に、影響を受けている人々の才能を強調し、彼らが最大の可能性を発揮できるよう機会を保証することによって、彼らの状況について啓発を進めるべきです。

国連総会では、9月に、自閉症スペクトラム障害のある人々を含む10億人を超える障害のある人々の状況に対応するためハイレベル会議を開催します。私は、指導者たちが、この機会をしっかりと捉え、これらの人々とわれわれ全人類を助けるものとなるよう意味のある改善を行うよう望むものであります。

自閉症について耳にする人はますます増えていますが、多くの国において依然として知られていなかったり、または、口に出せない話題となっているのです。シンポジウムは、これらのスペクトラム障害に関する認識をさらに高めるための継続的な取り組みの好事例であり、成功を祈ります。

自閉症スペクトラム障害のある人々が現に直面している困難に対応し、彼らが強みを伸ばすのを手伝いつつ、彼らと手を携えて取り組みを続けようではありませんか。彼らが生まれながらにして持つ権利である、充実した人生を過ごせるよう、サポートしようではありませんか。